授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	こどもと文学	■講師名	高畠潤子

1　年　　15 コマ（1コマ90分授業）　総時間　30 時間　講義　2 単位

■学修概要

こどもにとってなぜ絵本が重要か、年齢別に与える絵本の選書の仕方と読み聞かせのコツを学ぶ。授業の後半では、学生自身が5Pの創作絵本を作る。

■授業目的、到達目標

たくさんの絵本に出会う。そしてその本がどう良いのか、子どもに与える影響について自身の言葉で説明できるようにする。
創作絵本をつくることで、子どもに伝わる展開、言葉使いなどを考え、子ども目線にたつことができるようにする。

■授業方法

年齢別絵本を毎週十冊よみ、感想をお互いのべる。
創作絵本をつくる。

■教科書（書籍名・出版社）

オリジナルのテキストコピーを配布

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

絵本の出版
子どもむけイベントの工作ワークショップ

■授業計画（講義の流れ）

1	こどもにとって絵本とはなにか
2	０、１歳の絵本を紐解く
3	２、３歳の絵本を紐解く
4	４、５歳の絵本を紐解く
5	６歳～幼年童話への移行
6	絵本をつくってみよう①絵本作家の絵本の作り方
7	絵本をつくってみよう②　言葉つみあげ絵本、あいうえお作文絵本
8	絵本を作ってみよう③題材さがし　起承転結
9	絵本を作ってみよう④ラフを書いてみよう
10	絵本をつくってみよう⑤本描き
11	絵本をつくってみよう⑤本描き
12	絵本をつくってみよう⑤本描き
13	絵本をつくってみよう⑥製本
14	お話会をしてみよう
15	テスト

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	図画工作１	■講師名	高畠潤子

1年　15コマ（1コマ90分授業）　総時間　30時間　講義　1単位

■学修概要

絵や工作を作る上で必要な技術を学ぶ
こどもの作りたい！を引き出すモノづくりの視点を考える

■授業目的、到達目標

鉛筆、クレヨン、絵の具の混色、ハサミ子どもたちが初めて使う画材の扱い方、安全に使えるようになる方法を学ぶ。
のり、テープ、ホッチキス、粘土など、園で日常的に使う画材を知る。

■授業方法

色々な画材を使って制作。子どもに分かりやすく制作過程を伝えるにはどうしたらいいかを書面にまとめる

■教科書（書籍名・出版社）

材料費　3500円

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及びテスト（制作発表）の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

絵本の出版
子どもむけイベントの工作ワークショップ

■授業計画（講義の流れ）

1	授業の概要　子どもの絵の魅力とは？　絵の上手い下手ってなに？
2	絵心のストッパーをはずそう！自画像をかく
3	色水遊び　混色の楽しさを知ろう
4	混色　自分が表現したい色を作れるようになる
5	弾き絵、コラージュ、
6	はさみ、のり、セロハンテープ、ホッチキスの使い方　造形づくり
7	廃材を使った造形作り
8	粘土
9	粘土
10	季節の工作をつくる
11	制作
12	制作
13	制作
14	プレゼンテーション資料づくり
15	発表

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	リズム表現Ⅰ	■講師名	前田　有輝

1年	前　期	15コマ（1コマ90分授業）	総時間	30時間	演習	1単位

■学修概要

保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するため必要な知識や技術を、自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現敵領域、言語表現的領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とする。
また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、リトミックを中心に保育の中で取り扱う教材に必要な知識をも合わせて習得する。

■授業目的、到達目標

保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を習得する。
表現する力を育てるための手法を実践を通して習得する。

■授業方法

講義、集団レッスン、個人レッスン

■教科書（書籍名・出版社）

リトミックってなあに：ドレミ楽譜出版
プリント

■成績評価・講義上の注意

筆記試験、実技試験、授業態度での総合評価

■実務経験

2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。

■授業計画（講義の流れ）

1	ガイダンス・音楽の3要素（リズムについて）
2	音楽教育としてのリトミック①・リズム演習①
3	音楽教育としてのリトミック②・リズム演習②
4	リトミック演習①・リズム演習③
5	リトミック演習②・リズム演習④
6	人間教育としてのリトミック①・リズム演習⑤
7	人間教育としてのリトミック②・リズム演習⑥
8	リトミックの歴史①・リズム演習⑦
9	リトミックの歴史②・リトミック演習③
10	指導者としての心構え①・リトミック演習④
11	指導者としての心構え②・リトミック演習⑤
12	リトミック演習⑥
13	リトミック演習⑦
14	実技試験（リトミック発表）
15	筆記試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	音楽Ⅰ	■講師名	前田　有輝

1　年　通　　年　　30 コマ（1コマ90分授業）　総時間　60 時間　演習　2 単位

■学修概要

保育内容に沿った音楽表現ができるよう、音楽の基本的な理論を学び、楽譜の読み方、コードネームなど基礎的な知識・技術を学ぶ。様々な子どものうたを覚える。

■授業目的、到達目標

歌唱・楽器演奏につながる基礎的読譜能力を身につける。主要三和音について理論的に理解し、コードネームでの簡易伴奏ができるようにする。子どもの歌について学び、子どもたちの豊かな音楽表現に繋げる基礎力を身に着ける。

■授業方法

音楽の理論を学んでいくため、座学が中心。

■教科書（書籍名・出版社）

超やさしい楽譜の読み方　これだけは覚えよう：音楽之友社

改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育：教育芸術社

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。

■実務経験

2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション、楽譜の基礎知識1
2	楽譜の基礎知識2、音符と休符1、読譜・記譜練習
3	音符と休符2、読譜・記譜練習
4	4・5月の歌、読譜・記譜練習
5	音符と休符のまとめ
6	拍子とリズム1、6月の歌
7	大譜表の記譜練習、拍子とリズム2
8	音程1、7月の歌
9	音程2
10	音程3
11	移調導入、8月の歌
12	楽譜、9月の歌
13	前期総まとめ
14	前期総まとめ
15	前期試験
16	読譜・記譜練習、音階と調1（ハ長調）
17	音階と調2（調号3つまで）
18	移調、10月の歌
19	和音とコードネーム1
20	和音とコードネーム2
21	和音どコードネーム3
22	11月の歌、コード伴奏づけ
23	楽譜、9月の歌リズム創作
24	12月の歌、合奏
25	簡易伴奏編曲、記譜
26	1月の歌、わらべうた
27	2月の歌、総まとめ
28	3月の歌、総まとめ
29	総まとめ
30	後期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	音楽Ⅱ	■講師名	前田　有輝

1　年　前　　期	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	演習　1 単位

■学修概要

課題曲を集団でレッスンした後、各々のキーボード・ピアノ室の個人練習、個人レッスンを行う。
歌の指導時やリトミック時のピアノ伴奏法を習得するため、グループレッスンを行う。

■授業目的、到達目標

楽器演奏時の姿勢・運指法を基礎から丁寧に指導。音楽Ⅰで学習する知識と技術を実践で活かし、演奏技術の習得を目指す。童謡、生活の歌、季節の歌等、弾き歌いの技術習得を目指す。

■授業方法

集団レッスン、個人レッスン。
授業4回に1回、ミニテスト実施。
授業時間以外にも、自主的に課題曲の練習を重ねられるよう、促す。

■教科書（書籍名・出版社）

改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育：教育芸術社

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。

■実務経験

2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション、片手奏、両手奏、大譜表の練習曲
2	童謡曲、和音の練習、スリーコード伴奏、アンサンブル
3	課題曲合同レッスン、個人レッスン
4	個人レッスン、プチテスト
5	課題曲合同レッスン、個人レッスン
6	個人レッスン、アンサンブル
7	課題曲合同レッスン、個人レッスン
8	個人レッスン、プチテスト
9	課題曲合同レッスン、個人レッスン、弾き歌い
10	個人レッスン、弾き歌い
11	個人レッスン、試験曲決定
12	弾き歌いプチテスト、個人レッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン・発表
15	試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	音楽Ⅲ	■講師名	前田　有輝

1　年　後　　期	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間	30 時間	演習	1 単位

■学修概要

課題曲を集団でレッスンした後、各々のキーボード・ピアノ室での個人練習、個人レッスンを行う。曲のレパートリーを広げていく。歌の指導時やリトミック時のピアノ伴奏法を習得するためのグループレッスンも行う。

■授業目的、到達目標

生活の歌、季節の歌など、保育現場で定番の歌を弾き歌いできるようになる。ハ長調・ト長調・ヘ長調の主要和音を使ったコード伴奏を習得する。各自が余裕をもって弾ける伴奏方法にアレンジできるようになる。

■授業方法

集団レッスン、個人レッスン

■教科書（書籍名・出版社）

改訂　幼稚園教諭　保育士養成課程　幼児のための音楽教育：教育芸術社

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。

■実務経験

2014年に自身初となるソロリサイタルを開催する。その後多数のオペラや合唱曲、幼児向けコンサートへの出演や動画作成も行う。これまでに個人レッスン・混声合唱団そよ風・横浜創英中学高等学校・日本大学高等学校中学校にて指導者・講師としても活動。「生徒による授業評価アンケート」にて連続で非常に高い評価を受ける。

■授業計画（講義の流れ）

1	音楽Ⅱで弾いた曲の復習、生活の歌合同レッスン（左手）
2	生活の歌合同レッスン（右手）、アンサンブル、個人レッスン
3	個人レッスン
4	個人レッスン、プチテスト
5	季節の歌合同レッスン、個人レッスン
6	個人レッスン、アンサンブル
7	生活の歌合同レッスン（弾き歌い）、個人レッスン
8	個人レッスン、弾き歌いプチテスト
9	季節の歌合同レッスン、個人レッスン
10	個人レッスン、弾き歌い
11	試験曲候補合同レッスン、個人レッスン
12	プチテスト、試験曲決定
13	個人レッスン
14	個人レッスン、発表（試験リハーサル）
15	試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	英語表現	■講師名	山崎歩
1　年	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	60 時間　講義　2 単位

■学修概要

この授業では、保育園等における英語活動の実践例から、子どもが楽しめる英語活動はどのようなものかを学ぶ。保育者が保育現場で活用できる表現や語彙、英語教材について学習する。保育現場において英語活動ができるようになることを目指し、英語のコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、保育における視点を大切にしながら現場で役立つ内容を取り入れた授業を行う。

■授業目的、到達目標

①　子どもの英語学習の意義を踏まえ、子どもの英語活動にはどのようなものがあるのかを説明できるようになる。

②　英語活動で使う指示語(クラスルームイングリッシュ)や保育現場で役立つ単語や表現を使用できるようになる。

③子どものための英語教材の作成、アクティビティーや英語の歌、手遊びの実演ができるようになる。

■授業方法

保育現場において英語活動ができるようになることを目指し、英語のコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、保育における視点を大切にしながら現場で役立つ内容を取り入れた授業を行う。

■教科書（書籍名・出版社）

■成績評価・講義上の注意

発表(英語活動)50%　定期試験50%

■実務経験

■授業計画（講義の流れ）

1	子どもの英語について　オリエンテーション
2	保育者や教師が知っておきたい英語表現　Classroom English
3	英語で自己紹介をしよう
4	体の部分を言ってみよう
5	アクティビティーゲーム
6	英語教材を作ろう
7	自分の気持ちを表現しよう
8	色で遊ぼう
9	ミニ英語絵本作り
10	異文化理解
11	英語の歌
12	数を使ったアクティビティについて
13	英語の紙芝居 Who am I?
14	フラッシュカードについて
15	英語のHalloween ソング
16	季節に合わせた活動①Halloween
17	マザーグースについて
18	幼児の英語活動の映像
19	英語のクリスマスソング
20	季節に合わせた活動②Christmas
21	クリスマスカードの書き方
22	保護者へのお知らせの英語の書き方
23	子どもの英語活動の実践準備
24	絵カードについて
25	絵カードを使った英語活動の実践
26	英語で表現する年間行事
27	季節に合わせた活動③バレンタイン
28	英語活動の修了書の書き方
29	英語の卒園証書について
30	まとめ　英語活動の実践

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	現場実践研究Ⅰ	■講師名	山崎歩

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　1 単位

■学修概要

保育の現場における幼児の発達や学びを理解し、実践の意義と重要性を身に付ける。

■授業目的、到達目標

保育実践についての知識を身に付け、考え方及び基礎的態度を理解する。
年齢に応じた保育実践の方法を具体的に理解する。

■授業方法

講義と必要によって実践を含む。

■教科書（書籍名・出版社）

■成績評価・講義上の注意

出席、授業態度、授業の振り返りシートなどで総合的に判断する。

■実務経験

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション　生活は学び, 遊びは学び「表現」
2	保育･教育の方法と基礎的理論と実践, 子どもの活動の形態
3	子どもの生活と遊び①「音遊び･運動遊び」
4	子どもの生活と遊び②「遊びの展開を支える基礎的な技術」
5	子どもの生活と遊び③「ごっこ遊び･劇遊び」
6	子どもの生活と遊び④「描いてみよう･作ってみよう」
7	子どもの生活と遊び⑤「数量･図形に関する遊び」
8	子どもの生活と遊び⑥「遊びの展開を支える基礎的な技術」
9	コミュニケーションを楽しもう①
10	コミュニケーションを楽しもう②
11	コミュニケーションを楽しもう③
12	「個別的な対応とクラスづくり」「活動計画の作成と活用」
13	ICTを保育に活かす
14	まとめ
15	試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子どもの食と栄養	■講師名	中神祐子

1　年　　30 コマ（1コマ90分授業）　　総時間　60 時間　　講義　　2 単位

■学修概要

栄養素から食形態などの食の基本を学習し、さらに食が子どもの身体の発達、精神的、社会的な発達に重要な者であることを知る。

■授業目的、到達目標

子どもにとって食とは、保育のプロとしてその重要性を理解し、子どもや保護者を含めた支援ができるようになる。また自らも食を大切にし基本的な食生活をおくれるようにする。

■授業方法

講義及び演習

■教科書（書籍名・出版社）

子どもの食と栄養　第２版　保育現場で活かせる食の基本（羊土社）

■成績評価・講義上の注意

出席日数、授業態度、提出物の評価、定期試験と総合的に評価する。

■実務経験

約30年間保健センターでの母子保健事業を経験、子どもの発達に合わせた相談や支援を行ってきた経験を活かし、実際の相談事例検討を行いながら理解を深める。

■授業計画（講義の流れ）

1	ガイダンス、栄養と栄養素
2	演習：自分の1日の献立をたてる
3	BMI、自分のエネルギー必要量を求める
4	事例検討
5	消化と吸収　食べ物がうんちになるまで
6	幼児向けの媒体作成
7	お弁当箱で子どもの食事量をつかむ　食事のバランス
8	幼児期のお弁当をつくる（計画）
9	実習：幼児期のお弁当つくり
10	実習：幼児期のお弁当つくり
11	授乳期の食と栄養
12	事例検討
13	離乳食の定義と必要性
14	離乳食開始から完了までの進め方
15	手づかみ食べ
16	離乳食後期の献立計画
17	ベビーフード
18	事例検討
19	実習：離乳食
20	実習：離乳食
21	幼児の間食
22	子どもと一緒につくるおやつ計画
23	口腔の発達や心身の発達と食生活
24	保育士の持っておくべき健康の概念
25	子どもの食生活の現状と課題
26	小児肥満
27	保育所における食育
28	食育イベントと保護者向けのお便り制作
29	試験
30	おやつ実習

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子どもの保健	■講師名	高橋　良子

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　2 単位

■学修概要

集団保育において保育者に求められる子どもの怪我や疾病、感染症等への適切な対応や事故防止、安全管理について習得する。また、ロールプレイ・グループワークを通して養護技術等の現場に即した実践力を身につける。

1．保健的観点に基づく保育の環境整備や健康・安全管理の実施体制など、これで得た保健知識を応用できる。
2．現場で起こり得る具体的な事例を通して実践できる。
3．発表や、グループワークに参加、討議でき、多様な理解の幅をひろげていくことができる

■授業方法

演習（講義、実技、グループワーク）

■教科書（書籍名・出版社）

これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

看護師の臨床経験と保育施設での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロとしての支援になるよう努力していく。

■授業計画（講義の流れ）

1	◆オリエンテーション（授業内容と評価方法の確認）
2	子どもの養護の仕方
3	保育における健康と安全の管理・衛生管理・施設内外の衛生管理（表2-1・表2-3）
4	事故防止と安全管理・保育中の事故防止の取り組み・睡眠中、水遊び、食事中、誤嚥、誤飲
5	危機管理・防災訓練、防犯訓練、引き渡し訓練、災害への備え・備蓄品
6	子どもの体調不良などへの対応・発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛・こんな時どうする？P65
7	子どもの体調不良などへの対応・痙攣・脱水・頭痛・鼻汁、鼻閉・熱中症・子どもの薬
8	応急手当・記録表・主なケガの対応・ぶつけた・打った・骨折・捻挫・脱臼・噛まれた・他
9	一次救命処置・図3－22
10	子どもの掛かりやすい感染症対策・集団発生の予防・手洗い、うがい、予防接種
11	保育者が知っておきたい感染症・感染症発生時と罹患後の対応
12	保育における保健的対応の基本的な考え方・バイタルサイン測定・視力・聴力測定・健康診断・個別配慮が必要な子どおm・障害のある子どもへの対応
13	健康及び安全の管理の実際・連携・保健計画
14	過程・専門機関・地域の関連機関との連携・これからの子どもの健康と安全
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	子ども理解	■講師名	平野　節子

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　2 単位

■学修概要

保育実践の基本となる子どもの特徴や心身の発達の変化について理論的・多角的に学ぶ。

■授業目的、到達目標

1，乳幼児の発達や学びを捉える方法について理解する。
2，乳幼児の個と集団の関係について理解できる。

■授業方法

講義、演習

■教科書（書籍名・出版社）

『福祉教科書　保育士　完全合格テキスト2025年版　上・下』翔泳社

■成績評価・講義上の注意

出席日数、授業態度、課題提出及び定期試験の結果により総合的に評価する。

■実務経験

小・中・高等学校、特別支援教育、日本語教師、心理士の資格を有し、20年以上小学校教員として教育に携わっていきた。教育学修士課程修了後は、乳幼児の保護者、保育者からの教育相談や地域子育て支援活動を行ってきた経験を活かして、子どもの発達や対応について多角的に子どもの理解を深める授業を行う。

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション
2	子どもの発達の基本的考え方
3	初期の発達の重要性
4	保育と発達の過程
5	胎児期から乳児期への変化
6	発達の援助と発達障害
7	幼児期の特徴
8	保育における集団と個の関係
9	環境を通した保育
10	メディアと遊びと保育の関係
11	児童福祉施設
12	児童期の特徴
13	青年期・成人期・老年期の特徴
14	観察と記録の仕方
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育実習指導Ⅰ	■講師名	近藤初江

1　年	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	60 時間	講義	2 単位

■学修概要

保育実習の目的と実践を学ぶ。

保育実習の心得とマナーを学ぶ

実習日誌の書き方。

■授業目的、到達目標

保育士としての心構え

保育所とは何か？保育とは何か？を学ぶ。

実習日誌が書ける。

■授業方法

講義、演習

■教科書（書籍名・出版社）

「保育実習」中央法規

■成績評価・講義上の注意

出席日数、授業態度、作成物で総業的に評価

■実務経験

保育所保育士２０年

保育園園長歴　８年

■授業計画（講義の流れ）

1	保育実習の目的と概要
2	福祉職としての保育士
3	保育実習の心構えと準備
4	保育実習の記録
5	保育所の機能と役割
6	子ども理解
7	保育士の職務理解
8	公園に散歩
9	保育計画と実践
10	保育環境と安全
11	保育所見学
12	保育園見学の感想
13	部分実習の演習
14	試験準備
15	試験
16	前期振り返り
17	実習日誌の書き方①
18	実習日誌の書き方②
19	実習生としてのマナー①
20	実習生としてのマナー②
21	実習指導計画の立て方（部分実習、責任実習などの立て方を学ぶ）①
22	実習指導計画の立て方（部分実習、責任実習などの立て方を学ぶ）②
23	手遊び、歌、ゲームなどの演習
24	施設実習とは①
25	施設実習とは②
26	施設見学
27	施設見学の感想
28	全体振り返り
29	試験準備
30	試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	就職研究1	■講師名	中川秀太

1　年　　15 コマ（1コマ90分授業）　　総時間　30 時間　　講義　　1 単位

■学修概要

日本語検定の問題を解き、ネイティブの大学生レベルの日本語力を養う。
国語辞典を十分に使いこなすノウハウを覚える。

■授業目的、到達目標

日本語検定の3級、4級の取得を目指す。
AI時代を生き抜くために必要な国語辞典を使いこなす能力を身につける。

■授業方法

講義、演習

■教科書（書籍名・出版社）

日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」　増補改訂版　中級
ISBN：978-4-487-81052-9

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

大学で日本語学を指導する。
日本語検定の問題作成委員を務める。
以上の経験をもとに、学生たちが洗練された日本語を身につけられるように促す。

■授業計画（講義の流れ）

1	校正・校閲の技法。
2	日本語検定の問題。敬語1。
3	日本語検定の問題。敬語2。
4	国語辞典の使い方。発音・アクセント。
5	日本語検定の問題。文法1。
6	日本語検定の問題。文法2。
7	国語辞典の使い方。文法。
8	日本語検定の問題。語彙1。
9	日本語検定の問題。語彙2。
10	国語辞典の使い方。語種。
11	日本語検定の問題。表記1。
12	日本語検定の問題。表記2。
13	国語辞典の使い方。表記。
14	日本語検定の問題＋国語辞典の使い方（補足）。
15	まとめ。

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	障害児保育	■講師名	相澤　隆二

1　年	30 コマ（1コマ90分授業）	総時間	60 時間	講義	2 単位

■学修概要

障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について、個々の障害の特性や心身の発達等に応じた援助や支援、配慮について理解をする。併せて家庭への支援や関係機関との連携等について理解する。また、障害児その他配慮を要する子供の保育に関する現状と課題について理解する。

■授業目的、到達目標

1、障害特性に応じた障害児との関わりを理解する。2、障害児保育における保育方法と計画を理解する。3、障害児保育に関連する諸制度を理解し、身に付ける。4、障害児その他特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。

■授業方法

講義

■教科書（書籍名・出版社）

新　基本保育シリーズ　⑰　障害児保育　／　中央法規

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。

■授業計画（講義の流れ）

1	障がいの概念
2	障害児保育の歴史
3	障害児者の地域社会への参加
4	障害児者への合理的配慮の理解
5	身体障害（肢体不自由）児・者の理解
6	身体障害（肢体不自由）児・者の援助
7	車いす体験
8	知的障害児・者の特徴、行動特性
9	知的障害児・者への援助、支援
10	身体障害（視覚・聴覚・言語）児・者の理解、援助
11	発達障害児の障害特性
12	発達障害の特性に応じた援助
13	重症心身障害児、医療的ケア児の援助
14	重症心身障害児、医療的ケア児の理解
15	定期試験
16	指導計画の理解
17	個別支援計画の理解
18	障害児保育の形態
19	環境としての保育者の役割
20	障害児の健康と安全①
21	障害児の健康と安全②
22	職員間の連携・協働
23	関係機関との連携・協働
24	保護者、地域との連携
25	保護者、家庭の理解、支援
26	専門機関の理解
27	専門機関との連携
28	障害に対する理念の変化
29	障害児を取り巻く制度
30	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	情報機器の操作Ⅰ	■講師名	楳村　麻里子

1　年　　15 コマ（1コマ90分授業）　　総時間　30 時間　　講義　　1 単位

■学修概要

パソコンを用いた文書作成、情報収集、プレゼンテーション等、社会人として必要な文書作成に関する素養を高める。

■授業目的、到達目標

Wordの操作技術と基本的なビジネス文書の構成を習得し、文書の起案作成力を高めることを目的とする。また、PowerPointを使用して効果的な表現力を養う。

■授業方法

講義、演習

■教科書（書籍名・出版社）

FOM出版　よくわかるWord2019＆Excel2019＆PowerPoint2019

■成績評価・講義上の注意

出席日数、授業態度、作成物で総業的に評価

■実務経験

大学と専門学校で、情報処理・パソコン講師勤務経験を活かし、社会人として必要なパソコンスキル習得のための授業を行う。

■授業計画（講義の流れ）

1	ガイダンス/PC教室の環境と教室の利用方法
2	Wordの基本操作/タイピング
3	ビジネス文書の基本構成とビジネス文書作成のポイント
4	ビジネス文書作成（1）
5	ビジネス文書作成（2）
6	ビジネス文書編集（1）
7	ビジネス文書編集（2）
8	グラフィック機能（1）
9	グラフィック機能（2）
10	表の作成（1）
11	表の作成（2）
12	ポスター作成
13	総合演習
14	プレテスト
15	前期テスト

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	日本国憲法	■講師名	丸山東人

1　年　　15 コマ（1コマ90分授業）　総時間　30 時間　講義　2 単位

■学修概要

日本国憲法について、憲法の成立過程、特徴、基本原理、国民の権利、統治機構、裁判所の役割と仕組みなどを基礎的に解説する。また、教育、福祉、自由権、社会権など援助者に関連する条文を、実践に即して詳説する。

■授業目的、到達目標

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、日本国憲法を頂点とする法体系の一部として位置付けられています。このことを授業を通じて理解するとともに、援助者として子どもの人権を守る砦であることを自覚し、実践に活かしてください。

■授業方法

教科書の要点をプレゼンテーションしてゆく。適宜、関連資料の紹介、ディスカッション、授業内レポートを取り入れる。

■教科書（書籍名・出版社）

保育と日本国憲法（学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会），橋本勇人（著），みらい，2018.

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

講師は、大学と専門学校で保育士・幼稚園教諭・学校教員の養成に携わってきた経験や、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。

■授業計画（講義の流れ）

1	保育者をめざすみなさんと日本国憲法
2	日本国憲法とは―その成立と特徴、基本原理―
3	人として生まれながらにもちうる権利
4	個人の尊重と幸せに生きる権利（幸福追求権）
5	法の下の平等
6	自由に考え、信仰する自由（思想・良心の自由、信教の自由）
7	自由に学び表現する権利
8	自由に職業や住む場所を選べる権利（経済的自由権）
9	不安なく生きる権利
10	教育を受ける権利と義務、労働者の権利
11	国を治める仕組み（象徴天皇・国民主権、国会・内閣・行政・地方自治）
12	裁判所の役割と仕組み（司法権、憲法の保障：違憲審査制）
13	平和主義と国を守ること―安全保障、自衛隊の存在―
14	憲法的な人権尊重と福祉的な思いやり・優しさとの調和
15	試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	乳児保育Ⅰ	■講師名	高橋　良子

1　年　　15 コマ（1コマ90分授業）　　総時間　30 時間　講義　2 単位

■学修概要

・各テーマに沿って今日の乳児を取り巻く環境を知り、意義や役割について理解する。
・乳児が生活する環境の変化や違いについて、調べ、学習および取り組んだ課題をグループワークを通して、意見交流をしながら理解を深める。

■授業目的、到達目標

① 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できる。
② 保育所，乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。
③ ３歳未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。
④ 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。

■授業方法

対面式授業とグループワークをしながら授業内容を深めていく。

■教科書（書籍名・出版社）

「改訂　乳児保育の基本」〈第２版〉阿部和子編　萌文書林

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

看護師の臨床経験と保育施設での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロとしての支援になるよう努力していく。

■授業計画（講義の流れ）

1	授業オリエンテーション・乳児保育の意義・目的
2	乳児保育歴史的変遷と乳児保育をめぐる現状
3	乳児保育の役割と機能（図表1-5から）
4	乳児保育の養護と「保育所保育指針解説」の内容（図表1-6、事例を通して理解を深める）
5	乳児が生活する場の現状と課題・家庭
6	乳児が生活する場の現状と課題・保育所、認定こども園、幼稚園
7	乳児が生活する場の現状と課題・地域型保育事業
8	乳児が生活する場の現状と課題・在宅訪問保育、乳児院
9	乳児の生活・保育のねらいと内容（各年齢）
10	協働の中の保育の実際・保育者間の連携
11	協働の中の保育の実際・保護者との連携
12	協働の中の保育の実際・地域との協働
13	クラスだより作成
14	クラスだより作成・発表
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	乳児保育Ⅱ	■講師名	高橋　良子

1　年　　15 コマ（1コマ90分授業）　　総時間　30 時間　　講義　　1 単位

■学修概要

乳児期は人格の基礎が形成される重要な時期であることを理解した上で、個々の発達に合わせた一人ひとりの健やかな育ちを保障するために保育者として必要である受容的で応答的なかかわりや、具体的な援助の仕方について学ぶ。
赤ちゃん人形を用いた保育体験やロールプレイ等の演習授業を通して現場に即した実践力を身に着ける。

■授業目的、到達目標

① 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できる。
② 保育所，乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。
③ ３歳未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。
④ 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。

■授業方法

講義・演習

■教科書（書籍名・出版社）

「改訂　乳児保育の基本」〈第２版〉阿部和子編　萌文書林

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

看護師の臨床経験と保育施設での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロとしての支援になるよう努力していく。

■授業計画（講義の流れ）

1	乳児保育の基本（子どもの主体性を尊重した、子どもの体験と遊びの展開･事例5-1）
2	乳児保育の基本（周囲の環境の重要性・事例5-2・事例5-3）
3	一人ひとりの子どもの発達を理解する枠組み・人生の出発点（出生時の状態）･発育過程図表5-2
4	発達過程に沿ったこの時期の対応・1歳児頃の発達・（図表5―6・5―9・5-11）
5	子どもを理解した援助・目の前のこどもの発達過程の理解・受容・見通し
6	家庭との連携・6年間を見通して支援・24時間の見通しの中での保育
7	生活や遊びを通しての保育とその環境・睡眠、食事の保育者の援助
8	生活や遊びを通しての保育とその環境・排泄、トイレットトレーニングの自立への過程
9	生活や遊びを通しての保育とその環境・3歳未満児の遊び・乳児の発達と遊び
10	保育の全体的計画と指導計画の実際・保育全体的の構造
11	保育の全体的計画と指導計画の実際・3歳未満児の指導計画
12	保育の全体的計画と指導計画の実際・年間指導計画作成の実際
13	保育の全体的計画と指導計画の実際　1歳児の7月の月案を作成する
14	保育の全体的計画と指導計画の実際・グループ発表
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育の心理学	■講師名	平野　節子

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　2 単位

■学修概要

子どもの精神的発達の特性を理解し、心理学的保育理論の変遷を学ぶ。子どもの人権を守る保育とはどのような保育なのかを考え、適切な発達への援助ができるよう知識と方策を学ぶ。

■授業目的、到達目標

子どもの発達段階に即した発達論や基本的概念について学び、現代社会における親子関係の課題から生じる心理的問題を保育士としての養護・教育の観点から理解し、子どもの精神保健を向上させられる保育士を目指す。

■授業方法

講義・演習

■教科書（書籍名・出版社）

『福祉教科書　保育士　完全合格テキスト2025年版　上・下』翔泳社

■成績評価・講義上の注意

授業中の態度、課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。

■実務経験

30年以上教育活動に携わり、教育相談を行ってきた実践経験から、現代社会における保育の重要性について講義する。また、教育と社会の関係について研究してきた観点から、保育士が身につけるべき発達支援のあり方について講義する。

■授業計画（講義の流れ）

1	**オリエンテーション**
2	発達を捉える視点
3	西洋の発達段階説
4	子どもの学びと保育
5	家庭支援の心理学
6	家庭と家族の理解
7	子育て家庭の現状と課題
8	虐待について
9	子どもの精神保健の課題
10	子どもの発達段階に応じた精神援助（１）
11	子どもの発達段階に応じた精神援助（２）
12	発達障害
13	遊びを通した援助
14	保護者への援助
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育原理	■講師名	平野　節子
1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　2 単位

■学修概要

保育の歴史と理論の変遷を学び、子どもの人権を守る保育とはどのような保育なのかを考える。一人一人の子どもが楽しく充実した日々を過ごすための保育士としての方策や環境づくりを考える。

■授業目的、到達目標

教育の基本的概念について学び、現代社会における保育の課題や保育士としての養護・教育の在り方について理解し、信頼される保育士を目指す。

■授業方法

講義・演習

■教科書（書籍名・出版社）

『福祉教科書　保育士　完全合格テキスト2025年版　上・下』翔泳社

■成績評価・講義上の注意

授業中の態度、課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。

■実務経験

30年以上教育活動に携わり、教育相談を行ってきた実践経験から、現代社会における保育の重要性について講義する。また、教育と社会の関係について研究してきた観点から、保育士が身につけるべき発達支援のあり方について講義する。

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション
2	教育の意義と目的
3	保育者の専門性と保育計画
4	子どもの発達と生活
5	諸外国の教育思想
6	日本の教育思想
7	教育制度（１）
8	教育制度（２）
9	教授・学習理論
10	カリキュラムの類型と評価
11	教育の現状と課題
12	特別支援教育と発達障害
13	保育と養護、教育としての保育
14	教育改革と教育振興計画
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育者論	■講師名	相澤隆二
1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　2 単位

■学修概要

保育者の位置づけ、役割、使命を中心に保育に対する理解を深めることを目的とする。

保育者の社会的役割について考えていく。

■授業目的、到達目標

保育者の役割について理解する

幼稚園教員、保育士等の職務について理解する保育における環境の概念を理解する。

■授業方法

講義

■教科書（書籍名・出版社）

改訂版/幼稚園教諭・保育士のための現代保育者論　大学図書出版

■成績評価・講義上の注意

出席日数、授業態度、作成物で総業的に評価

■実務経験

社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。

■授業計画（講義の流れ）

1	保育者とはどのようなものか
2	保育者の位置づけと使命
3	保育者の役割
4	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育者の位置づけ
5	幼稚園教諭になるということ
6	幼稚園教諭の制度的位置づけ
7	保育所保育士になるということ
8	保育士の制度的位置づけ
9	保育者の一日と役割
10	保育者の専門性
11	保育における評価
12	記録するということ
13	幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録
14	自己研鑽
15	保育者が抱える様々な問題について

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（環境）	■講師名	相澤　隆二

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　1 単位

■学修概要

保育内容の領域「環境」の意義と意味を理解し、その指導方法の習得をする。子供の成長における自然環境や社会環境等の役割を理解し、併せて環境を生かした保育方法や考え方を学ぶ。

■授業目的、到達目標

1、生活における環境の内容と目的を理解する。２、身近な環境とかかわる指導法を理解する。３、子どもが生活や遊びにおいて体験していることをとらえるとともに、保育に当たって留意、配慮すべきことを理解する。

■授業方法

講義、演習

■教科書（書籍名・出版社）

保育を学ぶシリーズ３　保育内容「環境」　／　大学図書出版

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

社会福祉士・介護支援専門員・サービス管理責任者
障害児・者のサービス管理責任者や高齢者施設での相談員等を経験し、東京都内で保育園、学童保育、放課後等デイサービス、障害児・者の特定計画相談事業および横浜市内で高齢者施設、障害者施設を運営する社会福祉法人の理事長。

■授業計画（講義の流れ）

1	領域「環境」の意義と意味
2	保育計画について
3	子どもの発達と物的環境１
4	子どもの発達と物的環境２
5	子どもの発達と人的環境１
6	子どもの発達と人的環境２
7	子どもの発達と自然環境
8	幼児教育と教材
9	知的教育と環境との関わり
10	環境の中の文字・数
11	社会の文化と環境の関連
12	子どもの安全と環境の問題１
13	子どもの安全と環境の問題２
14	食農保育と環境
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（健康）	■講師名	丸山東人

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　1 単位

■学修概要

学習指導要領の保育内容「健康」の目標として示された「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ための基礎事項や指導方法を学ぶ。

■授業目的、到達目標

領域「健康」のねらいと内容の理解を深め、「子どもの健康を守り育む」という実践に向けた使命感とスキルの土台を醸成する。

■授業方法

講義とアクティブラーニング（討議、授業内レポート）

■教科書（書籍名・出版社）

保育内容「健康」と指導法: 考える・広がる・つながる、近喰晴子・茗井香保里編著、中央法規、2025

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

講師は、大学と専門学校で保育士・幼稚園教諭・学校教員の養成に携わってきた経験や、教育学を専門に研究活動をしてきた経験を活かし授業を行う。

■授業計画（講義の流れ）

1	領域「健康」とは
2	保育の基本
3	子どもの心身の発達
4	子どもの運動能力と遊び
5	食への関心と生活習慣
6	排泄習慣の自立
7	生活リズムの形成と睡眠
8	インクルーシブ保育と健康
9	遊びと健康
10	地域の資源を活用した活動
11	保育の安全と管理
12	指導評価
13	緊急時の備え
14	架け橋期の保育と健康、領域「健康」をめぐる現代的課題
15	定期試験

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（言葉）	■講師名	青田　晶子

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　1 単位

■学修概要

子どもにとって言葉とは何かを考えながら、領域「言葉」について理解し、豊かな言葉を育むための環境について考える。

■授業目的、到達目標

○保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域【言葉】のねらい及び内容について理解する。
○言葉を育む環境や支援について学ぶ。

■授業方法

講義と演習

■教科書（書籍名・出版社）

『子どもの育ちを支える　子どもと言葉』大学図書出版

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

講師は東京の公立幼稚園、大阪の市立保育園、市立幼保連携型認定こども園で２５年勤務した実践経験と、現代求められている保育について結び付けながら講義する。

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション、言葉とは
2	乳幼児期の発達と言葉①
3	乳幼児期の発達と言葉②
4	保育内容　領域言葉①
5	保育内容　領域言葉②
6	生活体験と言葉
7	あそびの中で育つ言葉①
8	あそびの中で育つ言葉②
9	児童文化と言葉～わらべうた、言葉遊び
10	絵本や紙芝居
11	おとぎ話、童話
12	文字との出会い
13	ことばのかかわりに配慮を要する子ども
14	現代の課題とまとめ
15	定期テスト

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（人間関係）	■講師名	青田　晶子

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　1 単位

■学修概要

人とかかわる中で育つ力について考えながら、領域「人間関係」について理解し、人間関係を育むための環境について考えていく。

■授業目的、到達目標

○保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域【人間関係】のねらい及び内容について理解する。
○人とのかかわりを育む環境や支援について学ぶ。

■授業方法

講義と演習

■教科書（書籍名・出版社）

『新訂事例で学ぶ保育内容　領域人間関係』萌文書林

■成績評価・講義上の注意

授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。
出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

■実務経験

講師は東京の公立幼稚園、大阪の市立保育園、市立幼保連携型認定こども園で２５年勤務した実践経験と、現代求められている保育について結び付けながら講義する。

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション、人間関係とは
2	乳児期の発達と領域「人間関係」①
3	乳児期の発達と領域「人間関係」②
4	乳児期の発達と領域「人間関係」③
5	子どもと保育者の関わり①
6	子どもと保育者の関わり②
7	あそびの中の人との関わり①
8	あそびの中の人とのかかわり②
9	生活を通してで育つ人とのかかわり
10	個と集団①
11	個と集団②
12	人とのかかわりを見る視点①
13	人とのかかわりで見る視点②
14	現代の課題とまとめ
15	定期テスト

授業計画（シラバス）

こども保育学科

■科目	保育内容演習（表現）	■講師名	山崎　歩

1　年	15 コマ（1コマ90分授業）	総時間　30 時間	講義　1 単位

■学修概要

子どもの発達・成長における表現の重要性についてふまえた上で、子どもの感性や創造性を豊かに育む領域「表現」の指導法について学び、考える。

■授業目的、到達目標

・領域「表現」が子どもの成長・発達に大きく寄与することを理解する。
・様々な表現の取り組みについて実践的に学び、子どもの感性や創造性を豊かに育む指導法について立案できるようになる。

■授業方法

講義・演習

■教科書（書籍名・出版社）

『幼保小で役立つ　絵本から広がる表現教育のアイデア』（一藝社）

■成績評価・講義上の注意

出席日数、授業態度、提出物等により総合的に評価する。

■実務経験

■授業計画（講義の流れ）

1	オリエンテーション
2	子どもの遊びや生活における表現
3	表現と五感
4	領域「表現」の歴史と内容
5	領域「表現」と環境構成
6	季節の造形・壁面づくり①
7	季節の造形・壁面づくり②
8	表現と鑑賞
9	3歳未満児の領域「表現」の指導方法及び保育の構想
10	3歳以上児の領域「表現」の指導方法及び保育の構想
11	期末発表のテーマ検討
12	期末発表準備
13	期末発表準備
14	期末発表リハーサル
15	期末発表